

令和5年度 第2回岐阜市未来のまちづくり懇談会 議事録（概要）

【日 時】 令和5年10月3日（火） 14時00分～15時50分

【場 所】 岐阜市役所6階 6-1大会議室

【出席者】 福士秀人座長、青木遥、國枝菊江、栗山尚子、小山真紀、塩崎智子、高木幹雄、道家晶子、谷藤錦司、山中里美、渡邊智和【敬称略】

1 開会

2 説明

◆事務局より資料に基づき説明

3 意見交換 （仮称）岐阜市未来創生総合戦略（素案）について

- ・今回提示された素案の中で、ワークダイバーシティや多様な働き方に関する記載がみられるが、リモートワークなどにより子育てや家事をしながら働きやすい環境になったと感じている。一方で、特に小さい子どもを見ながら働くことは非常に難しい部分があることから、リモートワークなどの制度のみではなく、職場の理解があることがいろいろな状況の中で働きやすい環境に繋がるのではないかと思う。
- ・岐阜市ではすでにテレワークを活用したショートタイムワーク事業など、様々な形の雇用の創出に取り組んでいる。それぞれの希望に合うような働き方ができるようになると良いと思う。
- ・素案46ページの子育てに関する記載で、「男性の家事育児への積極的な参加を促進」とあるが、女性が主となって家事育児に取り組み、それを男性が手伝うふうに見えてしまう危険性があると思う。男女がともに家事育児に取り組むように感じられる内容になると良いと思う。
- ・市外や県外の方と一緒にオンラインを活用し事業を進めることは、地元の雇用を抑制するのではなく、より良い形で事業が展開され、ひいては地元の雇用も増えていくような形につながるのではないかと思う。
- ・企業の中で職員の削減や高齢化が進む中で、女性の育成が必須かつ喫緊の課題であると受けとめている。そうした中で、女性がキャリアアップするために必要な情報を共有できる場所が必要になってくると思う。
- ・岐阜市は本当に豊かな自然や伝統文化に恵まれており、また、岐阜県の県都として、高度な都市機能を有し、とても住みやすいまちだと実感している。そうした点を発信していく役割や制度をつくりPRしていくということも地方創生の取り組みの一つとして良いのではないかと思う。
- ・福祉・医療分野に関連して、ACP（アドバンスケアプランニング）という取り組みが進められている。その中で、自分の最期について考えることがテーマとして取り上げら

- れることが増えている。こうした取り組みにより考えられたことが、紙に記載してどこかにいってしまうのではなく、デジタル化されて残されることが望ましいと思う。
- ・高齢者の方にとってスマートフォンの扱いは難しいことから、そうした方を対象とした講座が公民館などで開催されていくのが良いと思う。
 - ・現在デジタル化は転換期にあることから、自分でスマホを使える人はより使いこなせるように、使えない人は紙で対応しながら、みんなが活用できる理想の姿に近づいてほしいと思う。
 - ・SDGs と地方創生は非常に親和性が高いことから、SDGs 未来都市計画と総合戦略が統合された今回策定される計画の中で、SDGs と地方創生が一体となって進めていただきたいと思います。
 - ・今回示された戦略素案の中で DX の必要性が記載されているが、DX の推進は必須になってくると思う。様々な場面でデジタルを活用した地域活性化がすでに行われているが、今回策定される計画の中で、個別具体的な取り組みをぜひ進めていただきたい。
 - ・中小企業においても、DX の推進に遅れをとることは死活問題になるため、ぜひ、行政においてもそうした中小企業への支援を行っていただきたい。DX を先進的に進めている企業は、若い人からの支持を集め、そうした企業で働きたいという人への増加につながり、最終的には、若年人口の定着・増加にもつながっていくと思う。
 - ・デジタル人材の育成に関しては、早く始めれば始めるほど効果があると思うので、教育の面でしっかりとデジタル化に取り組む必要があり、また、そうした観点について、何らかの形で KPI に位置付けられれば良いと感じた。
 - ・本市の中心地には、非常に多くの観光資源が存在していることから、面的な広がりを持って回遊性を高めることができれば、にぎわいを創出できると思う。
 - ・私が住んでいる地域では高齢化率が 40%を超えているが、パソコン教室やスマホ教室などいろいろなことが公民館で開催されている。そうした取り組みがなかなか繋がっていない、継続していかないという課題があると思う。
 - ・少子高齢化が進む地域の中で、岐阜市が推奨するまちづくりとしてではなく、庭の草刈りや電球の交換など、ちょっとした手助けを地域で考え、取り組んでいる。そうした取り組みとともに、少しでも若い世代に入ってもらい、地域の活性化が進めば良いと思う。
 - ・物価高騰が続く中で、行政におけるセーフティネットの役割を意識いただき、孤独死や自殺対策など、市民の生活を下支えする取り組みも戦略の中に位置づけていただきたいと思います。
 - ・女性はもちろんのこと、高齢者や外国人の方などが活躍できるよう、多様性を重視するような取り組みを進めていただきたいと思います。
 - ・高齢者の中でも、デジタル技術を使いこなしている方も見えるので、デジタル技術を使うことが、生きがいや健康づくりにもつながっていくのではないかと思います。

- ・生活福祉資金の特例貸付の状況を見ると、いまだ生活困窮が続いている方が多くいる。
 - ・DX が推進される一方で、デジタル技術を使いこなせない方の中には、人間関係がますます希薄化している方がいると感じている。
 - ・介護分野においては、介護人材不足がずっとと言われており、2025 年には需給と供給のギャップが 37.7 万人にもなるというデータがある。そうした課題に、外国人の方に参入いただくためには、日本語や、日本の風習や習慣を学んでいただく必要があると思う。
 - ・新型コロナウイルス感染症により多くの地域活動の実施が困難になるとともに、感染症が拡大する間、自治会加入率も減少している中で、地域での福祉活動が今後継続できなくなるのではないかと懸念している。
 - ・建築業界での人材不足も言われているが、DX 人材だけでなく、そうした様々な分野での人材育成の面での継続的な支援も必要ではないかと思う。
-
- ・日本全体の農業に関する課題として、食料自給率の低さや農業者の高齢化、耕作放棄地の増加があげられる。戦略素案の 35 ページに「食を支え、未来へつなげる農業」とあるが、近隣市町との連携により、生産物のブランド力向上や販路拡大に取り組んでいる。
 - ・農業者の高齢化に対しては、新規就農者支援として、1 年間の研修の後、土地やハウスを貸して取り組んでいただく仕組みを取り入れている。
 - ・本市の農業分野における DX では、水稻における全自動田植え機の導入、畜産における牛の体温計による分娩の早期発見などが進められている。
-
- ・戦略全体として、当事者の考えを取り入れるという観点が大事だと思う。今回、小中学生の考えを聞いたという説明があったが、他人事として「こういうまちになったらいいな」ではなく、自分事として考え、意見を出してもらおう場づくりが大切だと思う。
 - ・人材育成全般に言えることだが、例えば防災分野において防災士育成講座の受講者が指標として掲げられていることがある。しかし、講座を受講した人の中で、実際に防災士として活動している人は全くいないことがある。何のために人材育成をしているかを考え、育成で終わりではなく活動につながるような指標設定が重要である。
 - ・デジタル化を行う中で、同じ課題解決を目的としたアプリが活用されていても、違う市町村間や都道府県でデータが共有できないことがあり、無駄を生じている。デジタル化の中では、国全体で俯瞰して取り組んでほしいということ、国に要望していくことが必要だと思う。
 - ・デジタル化を行う中で、データや情報を市民や行政全体で共有して使用できるようにするという考えが重要である。そうした中で、オープンデータ化やデータの共通基盤の構築が重要になってくると思う。
 - ・KPI について、この指標はどの分野の進捗を図りたいかをしっかりと検討したうえで設定していく必要がある。そうすることで、この戦略が目指す本来の目的を間違えないような仕組みができると思う。
-
- ・選挙の投票率の低下が指摘されているが、自治会加入率が低い地域は投票率も低い傾向にある。自治会加入率が低下していくことで、市からの情報が行き届きにくくなるとい

う課題があると思うので、自治会加入率の向上に向け研究していただきたいと思う。

- ・総合戦略と SDGs 未来都市計画を統合し、新しい総合戦略を策定するという説明があったが、地方創生と SDGs の計画を統合し、その計画に基づいた取り組みを進めることで、本市における地方創生、SDGs の推進を期待だけで終わることなく、しっかりと進めていただきたい。

4 閉会

以上